

香川日独協会会報

Japanisch-Deutsche Gesellschaft

KAGAWA



第28号

Juni 2024

目 次

＊会報発刊を記念して

ご挨拶	香川日独協会会長	住谷 幸伸	2
祝 辞	香川県知事	池田 豊人	4
祝 辞	高松市長	大西 秀人	5

＊会員投稿

1	2011年、初めての南ドイツの旅④	理 事	芥 一男	6
2	ジーボルトの冤罪を晴らす	坂出市会員	綾井 泰徳	8
3	親子の日独交流記	理 事	大久保あい	9
4	2023～2024年の交流事業	会長代行	大坂 靖彦	10
5	これまでの感謝 これからの希望	理 事	藤井 紀子	12
6	『一区画の土地に責任をもつ』	特別会員	細川 清	14

＊事業報告

1	オクトーバーフェスト	副会長	田村 慶三	16
2	ヴルフ元大統領歓迎会	副会長	田村 慶三	17
3	ドイツ映画鑑賞会「帰ってきたヒトラー」	副会長	玉垣光伺朗	18
4	春を呼ぶ会	理 事	長町 篤	19
5	2024年全国日独協会連合会総会参加報告	事務局	林 充代	20

＊総会資料

1	2023年度 事業報告	21
2	2023年度 決算報告	22
3	2024年度 事業計画(案)	23
4	2024年度 収支予算(案)	24
5	香川日独協会会則	25



再開した国際交流

香川日独協会 会長 住谷 幸伸



次年度に迫った香川日独協会とボン日独協会の友好縁組30周年記念事業の実施について協議するため2023年6月13日からボン市を訪問した。訪問団は私、仁信事務局長、林事務局次長、植松事務局員の4名でコロナが始まって以降、海外旅行は初めてであった。

ザビーネ会長ほかボン日独協会役員との協議では2024年10月にボン代表団が来日し、同11月に香川日独協会訪問団が訪独することで話がまとまった。帰国後、理事会に諮り最終決定したが、盛り上がりのある30周年記念事業にしたい。

訪独中に在デュッセルドルフ日本国総領事館に河原節子総領事を表敬訪問し、歓迎を受けた。河原総領事はドイツ赴任の挨拶に香川にいられて以来の再会となった。白亜の総領事公邸に招待され、歓迎の夕食会をしていただいた。今後もボンとの交流推進にご協力を頂かなければならないと思っている。

ボン市訪問にあたって、お預かりしていた高松市長の親書をボン市の担当にお預けした。その後、ボン市からの情報では10月のボン代表団にボン市の副市長が含まれるとのことである。自治体間の交流に発展する可能性もあり、楽しい秋になりそうである。コロナウイルスに悩まされた数年間であったが、いよいよドイツとの交流も再会の時を迎え、心踊る昨今である。



ボンを訪れる前日、高松市観光大使でドイツ、日本を中心に活躍するピアニスト富田珠里さんのコンサートがあると聞き、ハーゲンの街に立ち寄った。ご主人のバイオリンとの共演に感動した。高松でのコンサートも定期的におこなっており、これからも活躍を祈念している。

(富田珠里さん：2012年よりケルン音楽大学講師、デュッセルドルフ音楽教室主宰、大野ピアノメソッド・デュッセルドルフ校講師、日本帰国時に各地音楽教室での特別講師やコンクールの審査員を務めるなど後進の指導にあたる。)

Unsere Beziehungen setzten fort

Yukinobu Sumitani

Präsident der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa

Vom 13. Juni 2023 haben wir die Stadt Bonn besucht, um über das 30-jährige Partnerschaftjubiläum zwischen der DJG-Bonn und der JDG-Kagawa zu sprechen. Die Delegation „Team Kagawa“ bestand aus Frau Yumiko Ninobu, Geschäftsführerin, Frau Mitsuyo Hayashi, Vize-Geschäftsführerin, Herrn Ken Uematsu, Vorstandmitglied, und mir. Das war die erste Auslandsreise seit der Corona Pandemie.

Nach den Gesprächen mit Frau Sabine Ganther-Richter, der ersten Vorsitzenden, und mehreren Vorstandsmitgliedern sind wir zu dem Ergebnis gelangt, dass im Oktober 2024 zuerst die Bonner Delegation nach Kagawa kommen wird und wir im folgenden Monat Bonn besuchen werden. Das wurde beim danach folgenden Vorstandstreffen einstimmig genehmigt, und wir wollen dieses Stiftungsfest mit großem Erfolg veranstalten.

Während wir in Deutschland waren, hatten wir auch die grosse Ehre, dass Frau i.E. Generalkonsulin Setsuko Kawahara uns in ihre Residenz zum Abendessen eingeladen hat. Frau Generalkonsulin hatte uns bereits im August 2022 in Kagawa kurz vor ihrem Amtsantritt als Generalkonsulin in Düsseldorf besucht. Wir bedanken uns sehr für ihre bisherige Mitarbeit und freuen uns zudem auf ihre große Unterstützung für die künftige Förderung unserer Beziehung mit der DJG-Bonn.

Wir haben einen persönlichen Brief vom Oberbürgermeister Onishi an die Frau Oberbürgermeisterin Dörner überreicht. Neulich haben wir die Information von der Stadt Bonn bekommen, dass im Oktober eine der Bonner Bürgermeisterinnen nach Kagawa kommen soll. Wir sind überzeugt, dass dieser Besuch sich zu einer künftigen Städtepartnerschaft zwischen den beiden Städten, Bonn und Takamatsu entwickeln könnte. Wir freuen uns auf diesen Herbst. Endlich können wir wieder unsere Beziehung fortsetzen, nach langer Unterbrechung wegen Corona.

Einem Tag vor unserem Besuch in Bonn haben wir die Stadt Hagen besucht, wo ein Konzert von Frau Shuri Tomita mit ihrem Mann stattfand. Frau Tomita ist die Tourismusbotschafterin der Stadt Takamatsu, sie wohnt zur Zeit in Düsseldorf mit ihrem Mann Shotaro, der Konzertmeister des philharmonischen Orchesters Hagen ist. Frau Tomita unterrichtet seit 2012 an der Musikhochschule Köln und leitet die Düsseldorfer Musikklasse. Sie ist Lehrerin bei der Ono Pianomethode-Schule in Düsseldorf. Sie unterrichtet Schüler und ist Preisrichterin in vielen Orten in Japan. Natürlich gibt sie selber auch regelmässig mehrere Konzerte in Takamatsu.



祝 辞

香川県知事 池田 豊人

香川日独協会の皆様方には、日頃から、香川県の国際交流の推進に格別のご尽力をいただいております。厚くお礼を申し上げます。

貴協会は設立以来、本県における日独交流の中心として、ドイツワインを楽しむ「オクトーバーフェスト」の開催や、「かがわ国際フェスタ」への出展など、県民の皆様にごドイツ文化の情報を積極的に発信されており、歴代会長をはじめ、会員の皆様方のご熱意とご努力に、深く敬意を表します。

今年度は、貴協会がボン日独協会と姉妹提携を締結して、30周年を迎える記念の年に当たり、秋頃には相互訪問を行われる予定であると伺っています。こうした国際交流の積み重ねが、国民一人ひとりの相互理解を深め、両国の友好親善や交流促進につながるものと考えております。皆様方には、本県における日独友好の懸け橋として、今後とも、地域に根ざした国際交流活動に一層のご尽力を賜りますようお願いいたします。

また、今年は、瀬戸内海国立公園が、我が国最初の国立公園に指定されてから30周年となります。さらに来年は、現代アートの祭典である瀬戸内国際芸術祭の開催が予定されています。ぜひ、多くの方にお越しいただき、瀬戸内海の多島美の美しさを満喫していただきたいと思います。会員の皆様方には、ぜひ足をお運びいただき、ドイツとの交流の中で香川県の魅力をお伝えいただければ幸いです。

結びに、貴協会のますますのご発展と、住谷会長をはじめ会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

I would like to offer a sincere thank you to the members of the Japan-German Society Kagawa for their countless contributions to the promotion of international exchange in Kagawa Prefecture.

I would also like to express my deep respect for the enthusiasm and efforts of all presidents and members, both past and present, of the society, which, since its establishment, has been the center of Japanese-German exchange in our prefecture, actively providing information on German culture through events such as Oktoberfest, where you can enjoy German wine, exhibiting at the Kagawa International Festival, and so much more.

This year marks the 30th anniversary of the sisterhood agreement between the Japan-German societies of Kagawa and the city of Bonn, and I understand that you are planning to arrange visits from Kagawa to Bonn, and from Bonn to Kagawa, in the fall. We believe that the accumulation of such international exchanges will deepen mutual understanding between the people of Japan and Germany, and lead to the promotion of friendship and exchange between our two countries. As a bridge of friendship between Japan and Germany in our prefecture, I hope that you will continue to make further efforts in international exchange activities rooted in the local community.

This year also marks the 90th anniversary of the designation of the Setonaikai National Park as Japan's first national park, and our contemporary art festival, the Setouchi Triennale, is scheduled to be held next year. We hope that many visitors will come and enjoy the beauty of the Seto Inland Sea's many islands, and we hope that your society members will come, too, and use their exchanges with Germany as an opportunity to share the beauty and appeal of Kagawa Prefecture. Lastly, I would like to offer my sincere wishes for the continued growth of the Japan-German Society Kagawa, and for the health and success of President Sumitani and all members.



祝 辞

高松市長 大西 秀人

香川日独協会におかれましては、創立以来、日本とドイツとの市民交流の架け橋として、教育・音楽・食など様々な分野の事業を実施するなど、両国の友好親善へ多大な御貢献をいただいておりますこと、深く敬意と感謝の意を表します。

また、本年、ボン日独協会と友好提携をして30年目の節目の年を迎えられますこと、誠にありがとうございます。長年にわたり、両協会員の皆様が、お互いを思い、交流を続けてこられた御尽力の賜物であると存じております。

本市におきましては、「人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松」を目指すべき都市像に掲げ、今年度から新たなまちづくりをスタートしたところでございます。そのような中、海外の都市との積極的な交流は、市民の国際感覚の醸成や、高松のブランド力の向上を図る上でも、大変重要なものと存じており、皆様方の活動は誠に心強いものでございます。

会員の皆様方におかれましては、今後とも、日独の友好親善の更なる発展にお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

終わりにになりましたが、香川日独協会の御発展と会員皆様方の益々の御健勝・御活躍を心から祈念申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。

I would like to express my deep respect and gratitude to the Japan-German Society Kagawa for the great contribution it has made to the friendship and goodwill between our two countries since its foundation, through cultural activities in various fields such as education, music, and food, as a bridge for citizen exchange between Germany and Japan.

I would also like to congratulate you on the 30th anniversary of the sisterhood agreement with the German-Japanese Society Bonn. It's a pleasure to take this opportunity to show my heartfelt esteem and appreciation to all the members of both societies for the many years of mutual friendship and meaningful exchange activities.

This year, the City of Takamatsu has started a new urban development program under the vision of "Aiming for a World City, Takamatsu Where People Gather and the Future Vibrant." I believe that building good relationships with overseas cities are very important in fostering an international sensitivity among our citizens and improving Takamatsu's brand equity, and I am truly encouraged by your accomplishments.

I look forward to each member's continued support for further strengthening friendship and goodwill between Germany and Japan. In conclusion, I would like to offer my best wishes for the Japan-German Society Kagawa and good health and prosperity to everyone.

ONISHI Hideto, Mayor
City of Takamatsu

2011年、初めての南ドイツの旅④ ～ノイシュヴァンシュタイン城・ミュンヘン～

理 事 芥 一 男

8月18日(木)。安いホテルだが朝食はフランクフルトのホテル並みで私には十分満足できる内容だった。また、ついしっかり食べてしまった(この際ダイエットのことは考えない)。8:15、中央駅前のデパート・KARLSTADTに集合してノイシュヴァンシュタイン城(Schloss Neuschwanstein)行きのツアーバス(Autobus Oberbayern)に乗る。一番最後、80番目の乗客となる。ガイドさんはドイツ人女性で英語でガイドしてくれた。10:10頃にリンダーホフ城(ルートヴィヒ二世が唯一完成させた城)を見学。日本人ばかり集めて、部屋ごとに日本語の録音でガイドしてくれる。天気も良くきれいな城がさらにきれいに見える。城を出てアイスを食べる。1ユーロと安かった。11:15出発。11:40オーバーアマガウ(Oberamgau)到着。民家の外壁にメルヘンの絵が描かれているので知られている。食事はダメと言われているので、土産物店や周辺の散策のみ。デジタルカメラの電池が切れそうになっていたのも、コダックのマークのある店でインスタントカメラとそこにあったバイエルンのダンス音楽のCDを購入した。13:20、ノイシュヴァンシュタイン城の麓の街ホーエンシュヴァンガウ(Hohen Schwangau)到着。バス停のすぐ隣にあるミュラー(Müller)というホテル兼レストランで昼食(フランクフルトソーセージ2本+パン、ビール、コーヒー)。しばらくして、シャトルバスを勧められたが(他の人はほとんどこれ)、徒歩で40分ほどかけてお城のそばまで行く。そばまで来ると一本の塔がドーンと見えるだけという感じで巨大すぎて全体像が分からない。少し離れたところにマリエン橋(Marienbrücke)というビューポイント



があるというガイドさんが言っていたのでさらに少し歩く。シャトルバスの降り口に近く、大勢の人で吊り橋がいっぱいになっている。確かにここからはディズニelandのシンデレラ城のように見える。橋の下は溪谷になっていて、城と反対側にはきれいな滝も見える。絶景を楽しんだ後、城に戻り入場時刻(15:40)を待つ。各自自分のチケットに示された指定の時刻に入場する。各自

オーディオガイドを手渡されそれを耳に入れて歩く。城の窓から見えるフュッセン(Füssen)の街などを含む周辺の景色も素晴らしい。4階の「玉座の間」(王の死により置かれるはずの玉座は置かれていない)、食堂、執務室、寝室など豪華絢爛とはこのことである。人工の滝に照明までつけた「タンホイザーの洞窟」もある。ルートヴィヒ二世はワーグナーに心酔していて各部屋の壁にさまざまな作品の絵を描かせている。5階に上がり「歌人の広間」をみる。パイプいすが置いてあり、会議室のようになっていたのは意外だった。最後に1階に下り、厨房や風呂場になる予定だったところを見る。買い物も含めて場内では約1時間過ごした。ふた

たび歩いてホーエンシュヴァンガウへ戻り、17:10出発。18:50頃中央駅へ戻った。ホテルへ荷物を置き、念願だったピア・ホール、ホーフブローハウス(Hofbräuhaus)を目指す。ミュンヘンへ来た人は皆立ち寄るところと言われている。Uのオデオンプラッツ(Odeonplatz)を降り、レジデンツ(Residenz)の前を通り、店を探す。見つけた店を写真撮影し、中へ入ると体育館のように広く、分厚い木材でできたテーブルと椅子にお客がぎっしり。一気飲みで盛り上がった、民族衣装を着たウェイトレスと記念撮影したり、とにかくにぎやか。2階、中庭と



どこもほとんど席は埋まっている。中庭の階段では民族衣装のバンドが演奏を聞かせてくれる。

(写真左)中庭から屋内に入った扉のそばに席を見つける。注文したのは1リットルジョッキ(マース(Maß)という)とシュバイネブラーテン(Schweinebraten、豚のソテー、ソースがおいしい)。隣のテーブルでも日本人の若い夫婦が夫は黒ビール、奥さんは普通のビールのマース

をそれぞれ楽しそうに飲んでた。値段も17ユーロと全くまでもうれしい。念願がなかったミュンヘン最後の夜となった。

19日(金)ドイツ滞在最後の日。飛行機が2時過ぎなので午前中を有効に過ごそうと、レジデンツ(Residenz)を訪れる。バイエルン王家、ヴィテルスバッハ家の宮殿。ゲーテやモーツァルト、ナポレオンもここを訪れ驚嘆したと言われている。内部には4つの博物館と劇場があるが豪華な部屋や大広間など、かつての王宮内部がそのまま見られるレジデンツ博物館(Residenzmuseum)を見学する。開館時間の9:00に入館するが、空港への移動や食事のことを考えて11時ごろには出ようと思っていたので、最初は丁寧に見ていたが、10:30くらいに職員にあとどのくらいあるか尋ねるとまだ半分くらいだと言われ、そこからは駆け足の見学となった。つくづくその大きさを実感した。11時過ぎには中央駅に戻り、コインロッカーに預けていた荷物を取り、空港行きのバスに乗る。ミュンヘン空港では、ルフトハンザの受け付けはズバリとあるのだが、帰りに乗る予定の中国国際航空(Air China)の受付が見えないので、係員に尋ねると、階下に降りたところにあるとのことで行くと、隅のほうに受付があった。荷物を預け、マイルを入れてもらって、搭乗ゲートの近くまで行って、フランスパンのサンドイッチとビールでドイツでの最後の食事をした。飛行機は14時過ぎに離陸し、北京経由で北京までは中国人が多くてにぎやかだった。北京空港には朝の6時過ぎにつき、少し寝ぼけていたのか、国際線乗り換えへ進むべきところ、入国のところに並び、職員に叱られた。8:40到北京を発った。全日空との共同運航便で日本人キャビンアテンダントが1名乗務していて、中国人キャビンアテンダントに比べて見事な働きぶりに見えた。3時間ほどで関西空港に着いた。

おしなべて今回の旅行は予想していたより良かったと思う。まずそれぞれの町が長い歴史と文化を持ちながら、かつとても美しかった。また、食べ物やビールなどとてもおいしく、価格も手ごろだった。また今回は航空券、ホテル、鉄道チケット、現地ツアーの予約などインターネットを使って全部自分で手配し、おかげで昨年までより経費で10万円ほどは節約でき、ホテルなど旅行会社に頼むより質的にも良かった。海外旅行の面白さを十分満喫しいろいろと自信が持てた旅行だった。

ジーボルトの冤罪を晴らす

坂出市会員 綾井 泰徳

ここ数年、私はドイツ語のトリビア的話題を書いてきましたが、今年は趣向を変えて、ジーボルトについて書きます。なお、シーボルトではないか、と思われる方もおられると思いますが、ローマ字表記するとSieboldで、これをオランダ語読みすると、シーボルトとなり、ドイツ語読みすると、ジーボルトになります。これは、日独協会の会誌なので、ドイツ語読みを採用します。

さて、ジーボルトは、1823年(文政6年)に来日しました。この時、ジーボルトは「山オランダ人」とであると言って、嘘を言ったという人がいますが、決してジーボルトは嘘を言ってはいないのです。ジーボルトは、生国を尋ねられて、「ドイツ人」つまり、Hochdeutscherであると、答えてしまったのです。ところが、当時はオランダ人以外の入国は、許されていませんでした。しかし、これをオランダ通詞が、Bergholländer、つまり「山オランダ人」と訳したため、事なきを得て、入国できたのです。

私は、この話を、斎藤信『日本におけるオランダ語研究の歴史』という本で知りましたが、それを読む以前から、これはありうることだと思っていました。なぜなら、江戸時代においては、オランダ語のことを、Hollandsch(オランダ語で、「オランダ語」という意味、発音はホランスに近い。ただし、現代ではNederlands(発音はネーデルランスに近い。)という。)というだけではなく、Nederduits(オランダ語で、「低地ドイツ語」という意味、発音はネーデルドイツに近い。)ということがあったからです。この表記は、津山洋学資料館の展示で見かけました。

Nederduitsという単語を現代の蘭和辞書で引くと、「低地ドイツ語の、低地ドイツ語」としか出ていません。また、これに対応するドイツ語、Niederdeutschを現代の独和辞典でひいても、「低地ドイツ(語)の、低地ドイツ語」としか出ていません。

しかし、出典が思い出せないので申し訳ないのですが、あるヨーロッパ中世史の本に、「ドイツという統一国家が存在しなかった時代にあつては、ドイツ語が話されている地域が、ドイツであつた。」ということを書いてあつた記憶があります。江戸時代は、ドイツという統一国家は存在しませんでした。私は、詳しくは知らないのですが、そういう時代にあつて、オランダや、オランダ語の位置づけは、微妙なものがあつたのかもしれません。

ともあれ、ジーボルトは嘘を言っていなかったのです。

参考文献

斎藤信『日本におけるオランダ語研究の歴史』大学書林1985

洋学史学会監修『洋学史研究事典』思文閣出版2021

財団法人日蘭学会ほか編『講談社オランダ語辞典』1994

電子辞書として、CASIO EX-word XD-K7100に入っている『独和大辞典』

親子の日独交流記

理 事 大久保あい

昨年7月、様々なご縁によりノルトライン＝ヴェストファーレン州にあるヴィリッヒ市を訪れることになりました。ヴィリッヒ市は州都デュッセルドルフ市から西へ約30kmのところにある農業と工業が融合するまちで、この度、丸亀市とヴィリッヒ市による姉妹都市提携の調印式が行われました。

「ママ、ドイツに行くん？」

「そうだよ、丸亀市はヴィリッヒ市とこれからも仲良くしたり助け合ったりしていきたいから、どうぞよろしくをお願いします、と挨拶しに行くんだよ。」

「私も行きたいな。」

娘のこの言葉が心に残っていたので、日本を経つ前、子ども達と一緒に和柄の折り紙で鶴を折って持って行くことにしました。

ホテルで宿泊中のある朝、枕元に置いたチップの横にその折り鶴を添えて朝食に出かけました。朝食後、部屋に戻ると、ちょうどベッドメイキングが終わりかけていたところで、ある若い女性スタッフの姿が私の目に留まりました。彼女はテーブルのところで何かを一生懸命作っていたようで、私が挨拶をすると、

「折り鶴をどうもありがとう、とても素敵ね！」

「私の子ども達が折ったのよ！」

「そうなの！私もちょうちょを折ってみたんだけど・・・」

と照れくさそうに言って、「Danke schön!」と書いたメモ用紙の横に彼女が作ったちょうちょを置いていきました。折り鶴のお返しにメモ用紙を使ってちょうちょを折ってくれていたのです。それは隅々まできれいに折られていました。もしかすると彼女も折り紙に興味を持っていて手先が器用だったのかもしれません。

「ほら、ヴィリッヒのお姉ちゃんが鶴のお返しにちょうちょを折ってくれたよ！」

と、家に帰って子ども達に見せると、

「うわ、ほんとや！ドイツの人も折り紙するんやなあ！」

と大喜びしました。

何気ないちょっとしたやり取りだったのですが、私達にとっては心がとても温まる、そして心に残る出来事でした。相変わらず忙しい毎日ですが、このような小さな日独交流を積み重ねていけたらと切に思います。

丸亀市とヴィリッヒ市による姉妹都市提携の調印式を迎えるにあたり、これまで両市の交流の懸け橋としてご尽力されてきた方々の思いや願いがどれほどのものであったかを深く感じ取りました。今回このような機会に恵まれたことに心より感謝いたしております。

2022～2023 年の交流事業

会長代行 大坂 靖彦

ドイツ連邦共和国功勳章功勞十字小綬章を授賞いただいたドイツ連邦共和国クリスティアン・ヴルフ元大統領が2023年11月18日(土)に久々の来日をされ、六本木の焼鳥屋にて会食させていただきました。大統領とは過去3回お会いできる栄誉に浴しましたが、今回は1週間で3回もお会いすることができ大変光栄でした。



右から、衆議院議員城内実氏、
元ドイツ連邦協和国大統領クリスティアン・ヴルフ氏、
大坂靖彦、ソルロス氏とご令嬢、
日経新聞欧州総局長赤川省吾氏

2023年5月には、コロナ禍による再三の延期を余儀なくされていたドイツ・スイス渡航が4年ぶりに実現し、ドイツでの様々な企画イベント開催が叶いました。

5月13日、在ドイツ日本大使公邸にて「独日交流160周年記念友好賞授与式」が(株)ラポールスタイルとの共催にて執り行われました。

友好賞授与式は、在ドイツ日本大使館柳秀直在ドイツ特命全権大使、全国独日協会連合会フォルカー・シュタンツェル会長のご挨拶から始まり、受賞者16名へ柳秀直在ドイツ特命全

権大使より感謝状を授与し、日独交流振興協会および(株)ラポールスタイルから副賞も贈られました。

特別招待いたしましたプロピアニスト モナ＝飛鳥・オット氏の素晴らしい演奏により、式典は荘厳かつ華やかに進められ、式典後の懇親パーティでは皆様活発に交流を深めていただき、ドイツと日本との繋がりをを感じる素晴らしいひと時となりました。



日独交流160周年記念友好賞授与式(5月13日)
—在日本ドイツ大使館大使公邸にて



日本語スピーチコンテスト(5月13日)
—在日本ドイツ大使館大使公邸にて



在ドイツ連邦共和国日本国大使館
正門前にて

また同会場にて在ドイツ日本国大使館主催のもと、全ドイツ日本語スピーチコンテストが開催され、日本に強く憧れる参加者の表彰も行われました。

5月12日にはハイデルベルク市のハイデルベルク日本語補習校にて、ドリームシッププログラム出航式を開催。当日は子供たちとその親御さん達の約100名が集まり、将来の夢・志について真剣に考えをまとめていきました。

2000年より募金活動を行っているオーバーハウゼン・ドイツ国際平和村を訪問。今回もドイツ国際平和村の子供たちへの支援を願う同志の温かい募金€3,500が集まり、ドイツ国際平和村の皆様に贈呈しました。

ラインラント＝プファルツ州のライン川沿いのベンドルフにあるザイン城公爵夫妻を訪問し食事会にお招きいただきました。

ハンブルク市にて開催された独日協会連合会の総会にてスピーチの機会もいただきました。

20歳より60年の交流が続くワイナリーではその年に造られたワインのテイスティングを行い銘柄を決定、価格交渉をして日本へ輸入しています。今年は赤・白・ロゼの様々な銘柄合計4000本を買い付け、仕入れ実績はこれまで累計30万本を突破しました。

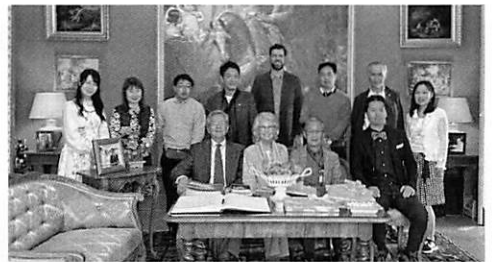
久しぶりのドイツを満喫でき、充実した渡航となりました。



ドリームシッププログラム・ハイデルベルク出航式
ーハイデルベルク日本語補習校にて(5月12日)



ドイツ国際平和村募金贈呈式(5月15日)



アレキサンダー・ザイン公爵夫妻を訪問
ーザイン城にて(5月16日)



独日協会連合会総会でのスピーチ
ーハンブルクにて(5月19日)



フーフ家とマンツ家、2家のワイナリーを訪問
(5月16日・17日)

これまでの感謝 これからの希望

ドイツ連邦共和国クリスティアン・ヴルフ元大統領をお迎えして

理 事 藤 井 紀 子

2023年11月13日は、記念すべき日になりました。大変名誉なことに、学校法人藤井学園創立100周年・藤井学園寒川高等学校創立50周年の記念式典・記念講演会に、クリスティアン・ヴルフ第10代大統領が参列くださいました。ヴルフ元大統領は「新時代の日独交流 ～若者へのメッセージ～」と題して、古今東西の偉人・著名人の言葉を引用しながら、自らのご経験をお話くださいました。何事も諦めずにやり続けることの大切さ、周囲の人と関わる上での誠実さの大切さ等についてお話くださいました。これからの人生における指針になるようなことばかりでした。



ご講演後には、中学1年生の全教室(3教室)を回ってくださいました。場を圧倒するようなオーラがある反面、吸い込まれそうな雰囲気もありました。生徒たちからの質問コーナーでは、どんな質問が出るのかとハラハラしながらも、1年生の生徒たちが、目をキラキラさせながら、ヴルフ元大統領を見つめていた様子が、大変印象的でした。

そして、その後には、生徒たちとの交流の時間です。生徒たちと昼食のカツカレー定食(デザートのカキつき!)を召し上がりながら、意見交換をされている様子を拝見すると、とてもリラックスしながらも、若者との交流を楽しまれているようにお見受けしました。生徒たちも、緊張した面持ちながらも、笑顔がたくさん見えて、和やかな雰囲気に包まれていました。一生、心に残る時間になったのではないかと思います。



思い返せば、5年前。鳴門でお目にかかったのが最初でした。創立記念式典にお越しいただきたいとお願いをしたら、快諾してくださったときは、まさに天にも昇る気持ちでした。そして、ヴルフ元大統領とご一緒しました3泊4日は、私にとって、天に昇って夢を見ている

ような時間でした。ゴルフ元大統領のお人柄に接するにつけ、ますますファンになっていきました。我が家で飼っている猫に興味を示してくださり、一国を背負う大統領であっても、ご自宅でお過ごしになられるときには、可愛い猫ちゃんたちとゆったりされているのかなと、ゴルフ元大統領への親しみを覚えました。

学校以外にも、丸亀市役所、丸亀城、本願寺塩屋別院、金刀比羅宮と、県内各所を回りました。元大統領が、訪問先の全てにおいて、質問をされたり、意見を述べられたりしているお姿を拝見し、政治、経済、教育、歴史、音楽、宗教…ありとあらゆる分野に対して、関心、しかも深い関心を持っていらっしゃるのだなと感じました。また、日本に対するお気持ちがとても強いことも伝わってきました。そのようなゴルフ元大統領とお会いして、私自身、ゴルフ元大統領への敬愛の念を抱くとともに、ドイツへの関心が増したようにも思います。



終始穏やかで、微笑みをたたえるゴルフ元大統領とご一緒して、世界共通の人間学に触れたような気持ちにもなりました。



『一区画の土地に責任をもつ』

特別会員 細川 清

『一区画の土地に責任をもつ』、どこかでお聞き憶えのフレーズかと思います。そうです、文豪ヘルマン・ヘッセのエッセイの表題です。晩年のヘッセ、1931年の思い出の記、『新しい家への引っ越しに際して』にある文言です。ドイツ語を添えておきましょう (verantwortlich für ein Stückchen Erde)。

さらに続けて、自分はおとぎ話に出て来るような家で、ひどい寒さに悩み、老後はもっと快適に、健康に暮らせる家をと、繰り返し心に浮かんだが、それは願望であってほんとうに真剣にこれを考えたことはなかった。どこかに、我が家を持ち、一区画の土地を愛し、耕して植物を植え、農民や牧人のつつましい幸福とともに味わい、農事暦のリズムに参加するという素晴らしい幸運を願ってきた。私は、全く思いがけなく、もう一度家を持ち、自分の財産ではないけれど、こうして一区画の土地を持つことになった。

人生には、いろいろ苦しいこともあるにせよ、それでも時折、希望の実現とか、充足によってもたらされる幸福が訪れる。定住して、草木や樹木や、土に親しむ。“一区画の土地にたいして責任を持つ”、じつに素晴らしい味がする。その生活は、人間の心をその本性の核心で引き付けるものである。つまり、土地を耕作する者の生活、勤勉と労苦に満ち、その根底に信仰があり、大地、水、空気、四季の神聖に対する、植物と動物の諸力に対する信頼である、と書いている。

筆者は、自分のキャリアの一部がドイツ文学にあった関係で、最後にまたヘッセを再度勉強することにしてきた。3年前、『ヘルマン・ヘッセの精神史』を上梓できた。その中に、「晩年の境地」と題した小節があるので、ここに掲げたい。

ヘッセの文筆以外でよく知られているのは、庭仕事と水彩画である。40歳を過ぎてこれを始めている。ヘッセは、心の内面における自我同一性の確立が眼目であった。川の流れと静止、また洋々と流れる川。ヘッセ自身の道程の終着駅は、山の斜面の庭仕事、絵筆をもつ水彩画、動と静に喩えられよう。遡り、ヘッセは創作の苦しみから家族と離れ、南国イタリアの明るい太陽を求めた。一か所に定住せず、友人、女性との交際のなかを彷徨した。内面への追求は、家族放棄という犠牲のもとに可能となったことも否定しがたい。南スイスは、モンテニョラの湖水のそばで、「一区画の土地に責任を持つ」庭仕事をなし、また近隣の村や、ルガーノの湖面を水彩画に描きながら、三度目の愛妻ニノンとの安寧にいたるまで、老年に至る歳月を要した。心身の安定は、晩年のいわば作業療法によって充実したということが出来る。

ヘッセの集大成は、ノーベル賞に輝いた『ガラス玉遊戯 Grasperlennspiel』です。この作品を書き終えたのは1942年、ヘッセ65歳でした。それから1962年に85歳で亡くなりました。この間、約二十年、ヘッセは作品らしいものを書いていません。創作力が衰えたわけではなく、創作が自然との対決に変わっていった老年が創造そのものに転嫁したということでしょう。もともとヘッセは肉体的にはそれほど恵まれず、ニノン夫人に支えられ、最後のよき伴侶を得て、自己実現を自然の中に確立していきました。

1942年の『自伝概略』に、童話の最高の形式としてのオペラを書くことが自分の晩年の野心となると述べていますが、しかし、自然の無邪気さ無尽蔵さを讃える方向への回帰が彼の終着駅になっていきました。ここに、自然、一区画の土地があるということでしょう。

参考文献:

ミヒェルス、V.: ヘルマン・ヘッセ 庭仕事の愉しみ. 草思社、1996.

田中 裕: ヘルマン・ヘッセ 人生の深き味わい KKベストセラーズ. 1997.

細川 清: ヘルマン・ヘッセの精神史 創作と癒し. 吉備人出版、2021.

オクトーバーフェスト

副会長 田村 慶三

10月28日(土)18:00より高松市丸亀町壺番街西館4階「シードラゴン」において、31名の参加者を得てオクトーバーフェストが開催されました。

最初に住谷会長から次のような要旨の開会の挨拶がありました。

「総会のあとボンを訪問し、ボン独日協会のザビーネ会長とお会いしていろいろな話をした。来年、ボン独日協会と香川日独協会の姉妹提携30周年を迎える。来年10月にボンから訪問団15名ほどが高松に来られ、11月にはわれわれがボンを訪問するので、それを機会に、ドイツとの交流もますます盛んにやっていきたい。また、若者の会の活動も活発化している。先日の



国際フェスタに香川日独協会も久々にブースを設けさせてもらった。その際に、日仏協会の川染会長さんとお目にかかることができ、本日は川染会長さん、平田事務局長さんにも参加していただいている。国際交流を進めて行くうえでは日独協会も日仏協会も同じ目的を持った仲間ということで、いろいろところで協力してやっていきたい。本日は、香川大学のドイツからの留学生2名ばかりでなくフランスからの留学生2名にも参加していただいている。」

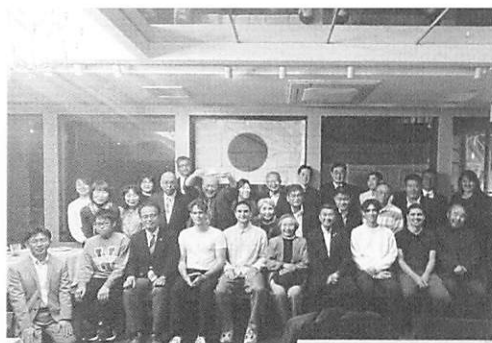
続いて徳田雅明香川大学名誉教授による乾杯のご発声で歓談が始まりました。そのご挨拶の中でも、香川日仏協会と香川日独協会が連携する機会が持てて喜ばしいこと、本日の会において香川大学へのフランス人留学生、ドイツ人留学生のいずれにもよくしていただきありがたいとお気持ちが語られていました。

歓談の合間で川染節江香川日仏協会会長からもご挨拶をいただきました。要旨は次のとおりです。

「1973年に初めてヨーロッパを旅行して以来、フランスをはじめドイツ、イタリアなどの文化が日本の文化とも異なる魅力を持っていることに惹かれて今に至っている。私の夢は、人と人が直に触れ合って交流することが世界中に広がっていくことである。私は大学生を教えているが、世界の若者が交流できる状態を作るのも大人の責任であると考えている。そのためにも、日仏協会と日独協会が協力することは重要だと思う。」

ご参加のみなさんは、各種の美味しい料理を味わいながら、フランス人、ドイツ人留学生とも日本に興味を持ったきっかけや留学生活で何がしたいかなどの話題で楽しく語りました。

平見副会長は閉会の挨拶の中で、ご自身のフランス語にまつわる思い出に触れられました。大学院の試験のためにフランス語を真剣に勉強したこと、ミッシェル＝ポルナレフが大好きでよく聴いたこと、英語の教員をやっているが英語との共通点も多いフランス語への思いは今も強く日仏協会にも入会したい希望もお持ちだそうです。



最後に参加者全員で集合写真を撮影して会はお開きとなりました。

クリスティアン＝ヴルフ元大統領歓迎会

副会長 田村 慶三

ドイツ連邦共和国クリスティアン＝ヴルフ元大統領の歓迎会を11月14日(火)17:00よりJ R ホテルクレメント高松において開催しました。大山智香川県副知事、中林大典高松市副市長を来賓としてお迎えし、理事会構成メンバーが中心となって元大統領をおもてなしました。



まず、住谷会長からヴルフ元大統領の訪問を契機として両国の政治・経済・文化・教育の連携がますます深まることを祈念している、元大統領との歓談を通じて更なる関係の深化をはかっていきたいとの挨拶がありました。

続いてヴルフ元大統領からご挨拶をいただきました。要旨は次のとおりです。「今回日本を訪問したのは、丸亀市の藤井学園からご招待を受けたためである。藤

井学園の創立100周年記念式典に出席し、若い生徒のみなさんと交流させていただいた。日本とドイツの共通点を改めて感じる事ができたとともに交流のすばらしさを感じる事ができた。日本とドイツは距離が1万キロも離れているものの、日独両国は気持ちのうえにおいてもまた価値観においてもまるで一つの国のような間柄にあると思う。以前は伊勢神宮に参拝をしたことがあり、本日は金比羅宮に参拝することができた。



宮司の方と人生の幸せについて意見を交換させていただくことができ、人との出会いが人を一番幸せにしてくれるものだと感じた。そうした出会いがあり、私は日本に多くの友人をもつことができた。古くからの友人もいれば、新しく友人になった方もいる。そうした友人に香川日独協会名誉会長の多田野榮様がいらっしゃる。多田野名誉会長は本日88歳の誕生日をお迎えになるとうかがっている。非常に喜ばしいことであると考



えている。今回丸亀市を訪問させていただいたが、鳴門と並んで丸亀市は俘虜収容所があった土地だが、第1次世界大戦時にそこでドイツ人が非常に人道的に扱っていただいて、友好の輪が広がったという歴史がある。そのような歴史を見るにつけ、日本の皆様がドイツあるいはドイツ語や歴史に大きな関心を抱いていただいていることに改めて感謝を申し上げたいと思う。

昨日は丸亀収容所におけるドイツ人俘虜の生活に関して田村副会長にすばらしいプレゼンテーションをしていただいた。日頃の研究の成果を聞かせていただいて本当に感激した。」

歓迎会には元大統領のご友人であるギド＝ソロース氏、同氏の娘さんのユリア＝ソロース嬢、香川大学のドイツ人留学生2名も参加されました。アトラクションの琴と尺八の演奏を、ヴルフ元大統領はじめドイツ人ゲストのみなさんは興味深く鑑賞されていました。

また、当日お誕生日を迎えられた多田野名誉会長にバースデケーキを贈呈し、参加者全員でお祝いするなど、終始和やかな雰囲気で開催されました。

ドイツ映画鑑賞会「帰ってきたヒトラー」

副会長 玉垣 光伺郎

12月16日、高松市の讃岐おもちゃ美術館のカフェにおいて、当協会のクリスマスパーティーとあわせて、今年もドイツ映画鑑賞会を開催いたしました。今回の上映映画は「帰ってきたヒトラー」(原題:「ER IST WIEDER DA」2015年、ドイツ)です。ヒトラーは歴史上最悪の独裁者の一人として知られますが、第2次世界大戦末期にベルリンの総統官邸で自ら命を絶ち、その後ベルリンは陥落、ドイツは敗戦を迎えます。この映画はそのヒトラーが命を落とし焼かれた時に現代のベルリンにタイムスリップして現れ、様々なところで騒動を起こすフィクションです。

現代に現れたヒトラーは現代社会の消費文化に驚きつつも、意外に溶け込み、自分の主張をあちこちで展開します。しかし人々には突然現れた「成り切った」コメディアンと思われ、ヒトラーの扇動的な主張や口ぶりは強烈なブラックジョークとして現代人にまさに大ウケとなります。たちまちのうちにテレビに引っ張り出され、あの雰囲気のまま現代の世相をバツサリ切ろうとするその主張に息をのみながらも耳を傾ける人々…。

一方でこのヒトラーがタイムスリップして現れたことに気づき、周りの人たちにそれを伝えようとする男がいましたが、頭のおかしい人扱いにされます。そして、ヒトラーの時代を生きたユダヤ人のお婆さんには「最初はみんなそうやって笑っていた」と言われ、本物のヒトラーだと指摘されます。ヒトラーは面白おかしく言っているのではなく、80年前と同じことを本気で言っているだけなのです。社会がこのヒトラーを面白おかしく受け止める様子を映画の中とはいえ「再現」しようとするのは、私には驚きでしかないのですが、映画の中でこのヒトラーを「本物だ」という人がいることを忘れずに描き、また一方でこのように正しいことを言う人を相手にしない多くの人々がいる様子も描く。この映画は現代社会に対する強烈な風刺にもなっています。

ところで、毎年この企画にあたりドイツ映画を選ぶ際に担当者の間でいくつか試写をしますが、ドイツ映画には第2次世界大戦やナチスを扱うものがたくさんあります。いずれも映画の中に深い洞察を含むものが多いのですが、今後も歴史物以外にも幅広く映画探しを続けながら、ドイツの文化について感じられる機会を設けていきたいと思います。



春を呼ぶ会が新しい風を呼ぶ

理 事 長 町 篤

2024年2月25日(日)午後6時より、高松市亀井町に所在のミラノのおかず屋さんにて、およそ5年ぶりとなるFASTNACHT(ファストナハト)を祝う会を開催できました。当日は22名の方にご参加いただきました。

開会は若者の会を長年にわたり牽引してくれた高橋さんから、本会の開催を祝うメッセージを預かり、その披露により始まりました。メッセージには香川日独協会から若者の会への多大な協力に対する感謝とこれからの国際交流の進展を祈る気持ちが満ちていました。

大坂会長代行の乾杯のあいさつでは、若者の会に寄せる大きな期待を熱いメッセージでいただき、若者の会が果たすべき役割の大きさを実感するとともに、今以上に若者の会を盛り上げていきたいと気持ちを新たにしました。

乾杯後しばらくしてから、昨年にドイツ大使館で開催されたサマーフェストへ参加報告の後に、ついにみんなが楽しみにしていたアトラクションが始まりました。

今回のFASTNACHT(ファストナハト)を祝う会の目玉は何と言っても大久保さんお手製のクイズ大会でした。事前に準備してくれた練りに練られたクイズの問題のみならず、現地のフェスティバルの紹介動画に雰囲気を盛り上げる○×の掲示札、さらには成績が優秀な班にはドイツにちなんだ豪華景品の数々でした。クイズの問題もドイツ初心者にも答えられそうな問題からドイツ通も思わずうなる難問とバリエーションも豊富。文字どおり誰もが楽しめるクイズ大会に参加者全員、みんな大はしゃぎでした。



正解が発表されるたびに飛び交う歓声と落胆の声。詳しい解説に納得のため息。隣のチームの答えを聞いて気持ちが揺らいだり、でも結果は正解だったり、その反対だったり。大久保さんから正解が発表される瞬間はどの参加者も固唾を飲みました。優勝チームへの記念品贈呈ではどの会員の方にも喜んで頂けて本当に良かったです。全ての勝ったチームもそうでないチームもみんなが楽しめる楽しいクイズ大会になりました。参加してくれた皆様の笑顔が次



回の準備に向けて本当に何よりも大きな励み、原動力になります。

最後は香川日独協会住谷会長より閉会のあいさつをいただきました。今回は小学生の子ども達も参加してくれ、若者の会と呼べるものになりました。今後は更に多くの若手の新会員をリクルートしていき、今回以上に盛況なFASTNACHT(ファストナハト)を祝う会になるようにしたいと思います。

－ 2024年全国日独協会連合会総会参加報告－

事務局 林 充代

日 時 令和6年4月19日(金)13:00～17:00・20日(土)9:30～12:30
会 場 鳴門市ドイツ館(鳴門市大麻町松字東山田55-2)

全国各地の日独協会が一同に会し、日独交流について話し合う「全国日独協会連合会総会」が今年は鳴門市で開催されました。鳴門市は4月18日にドイツ・リュネブルク市と姉妹都市盟約締結50周年を迎え、その記念事業とコラボしての総会となりました。

総会には、駐日ドイツ大使館クレメンス・フォン・ゲッツェ大使、大阪・神戸総領事館メラニー・ザクシンガー総領事、独日協会連合会フォルカー・シュタンツェル会長などをお迎えし、住谷会長、仁信副会長とともに参加しました。



当日は、東原敏昭会長が議長となり

- ①東原会長再任
- ②志賀・野澤監事再任
- ③2023年度決算・2024年度予算

を承認し、2025年度総会の東京開催を確認し終了しました。

その後、全国の日独協会から活動報告があり、多くの協会で会員の減少・高齢化が課題となっている中、香川県では若者の会が活動を再開したことや、今年のボン日独協会との姉妹提携30周年記念事業などについて報告しました。

続いて、独日連合会シュタンツェル会長及び理事のユリア・ミュンヒ ベルリン独日センター事務局長から、今年10月10日から13日までベルリンで開催される「日独パートナーシップデー」の取組みについて説明があり、ポスターセッションなども含め、両国ともに特に若者の参加を促進し、若い世代に繋げていくことを重要なミッションにしたいとのことでした。

2日目は、鳴門市職員のダリオ・シュトラヒヒさんによる板東俘虜収容所についての丁寧な説明の後、鳴門市とリュネブルク市の50周年記念事業として、鳴門日独友好協会村澤由利子会長のピアノと井上ゆかりさんのソプラノによる圧巻のコンサートが催されました。

続いて森鳴門ドイツ館館長による講演(「徳島の中のドイツー慰霊碑に導かれた日独交流ー」)のあと、再度お二人が登壇し、100年ぶりに演奏されるというドイツ・ラムセーガ作曲の「スイレン」を聞き、慰霊碑に献花をしてすべてのプログラムが終了しました。



2023年度香川日独協会事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

I 主催事業

	事業名	期日	会場	参加人数
1	オクトーバーフェスト	10/28	シードラゴン	31名
2	ドイツ映画鑑賞会・クリスマスパーティー	12/16	讃岐おもちゃ美術館	36名
3	ファストナハト・春を呼ぶ会(若者の会企画)	2/25	ミラノのおかず屋さん	22名

II その他事業

	事業名	期日	会場	備考
1	ボン市及び独日協会訪問(2024姉妹提携30周年に向け)	6/19・20	ボン市庁舎他	4名
2	独日文化交流育英会奨学生交流会	10/8	ジャングルビアガーデン	10名
3	かがわ国際フェスタ2023出展	10/9	アイパル香川	若者の会
4	ヴルフ元大統領歓迎会	11/14	JRホテルクレメント高松	25名
5	丸亀町グリーン・ドイツクリスマスマーケット	12/1～25	丸亀町グリーンけやき広場	名義後援

III 会議等

	事業名	期日	会場	参加人数
1	全国日独協会連合会総会出席	4/21・22	日立製作所会議室他	2名
2	第1回理事会	5/3	協会事務所 & オンライン	10名
3	総会・懇親会	6/10	JRホテルクレメント高松	64名 エバーツ総領事
4	第2回理事会	8/12	協会事務所 & オンライン	14名
5	第3回理事会	3/3	協会事務所 & オンライン	12名
6	ボンとオンラインミーティング(2024姉妹提携30周年に向け)	7/21・9/22・10/20・12/20・3/21		

2023年度香川日独協会収支決算書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

< I 収入の部 >

(単位:円)

科 目	2023年度予算額	2023年度決算額	差 異	摘 要
1 会費収入	440,000	358,000	82,000	
① 普 通 会 員	240,000	198,000	42,000	@3,000×66名
② 家 族 会 員	50,000	60,000	△ 10,000	@5,000×12
③ 学 生 会 員	10,000	0	10,000	
④ 賛 助 会 員	140,000	100,000	40,000	5団体
2 事業収入	700,000	719,000	△ 19,000	
① 総 会	250,000	276,000	△ 26,000	5000*50, 8000*3, 1000*2
② オクトーバーフェスト	150,000	112,000	38,000	4000*21, 5000*5, 1000*3
③ クリスマスイベント	150,000	114,000	36,000	4000*21, 5000*5, 1000*5
④ 春 を 呼 ぶ 会	150,000	74,000	76,000	4000*15, 5000*2, 1000*4
⑤ ドイツ関連交流費	0	0	0	
⑥ ヴルフ元大統領歓迎会	0	143,000	△ 143,000	7000*17, 8000*2, 3000*2, 1000*2
3 助成金	0	0	0	
① 県国際交流協会	0	0	0	
② そ の 他	0	0	0	
4 雑収入	100,020	20,016	80,004	
① 預 金 利 息	20	16	4	
② 広 告 収 入	100,000	20,000	80,000	1社
③ そ の 他	0	0	0	
当期収入合計(A)	1,240,020	1,097,016	143,004	
前期繰越収支差額(B)	2,026,128	2,026,128	0	
収入合計(A)+(B)	3,266,148	3,123,144	143,004	

< II 支出の部 >

(単位:円)

科 目	2023年度予算額	2023年度決算額	差 異	摘 要
1 事業費	1,230,000	1,231,388	△ 1,388	
① 総 会	400,000	536,523	△ 136,523	クレメント
② オクトーバーフェスト	180,000	209,000	△ 29,000	シードラゴン
③ クリスマスイベント	180,000	155,900	24,100	おもちゃ美術館
④ 春 を 呼 ぶ 会	180,000	110,830	69,170	ミラノのおかず屋さん
⑤ 若者の会関連事業費	50,000	6,135	43,865	かがわ国際フェスタ出展
⑥ 会 報 発 行 費	150,000	143,000	7,000	
⑦ 理 事 会	20,000	0	20,000	
⑧ 全国日独協会連合会	70,000	70,000	0	会費・総会参加料・旅費補助
2 管理費	242,000	46,421	195,579	
① 通 信 費	70,000	38,590	31,410	記念誌送料・HP管理料他
② 事 務 局 諸 経 費	70,000	6,511	63,489	印刷代
③ 手 数 料	2,000	1,320	680	振込手数料
④ 渉 外 費	100,000	0	100,000	
3 奨学金	50,000	50,000	0	5名
4 予備費	100,000	254,827	△ 154,827	ヴルフ元大統領歓迎会
当期支出合計(C)	1,622,000	1,582,636	39,364	
当期収支差額(A)-(C)	△ 381,980	△ 485,620	103,640	
次期繰越収支差額(A)+(B)-(C)	1,644,148	1,540,508	103,640	

(監査報告) 私たちは、香川日独協会の事業の執行状況並びに会計処理及び上記決算について監査したところ、その内容は適正であると認めます。

令和6年4月23日

監事

徳田 雅明

監事

石川 義典

2024年度香川日独協会事業計画(案)

(2024年4月1日～2025年3月31日)

I 主催事業

	事業名	期日	会場	備考
1	香川日独協会・ボン独日協会姉妹提携30周年記念事業(ボン訪日団受入)	10/16(水)～19(土)	県内各会場 (宿泊:JRクレメントイン)	
2	香川日独協会・ボン独日協会姉妹提携30周年記念式典	10/17(木) 18時～	JRホテルクレメント高松 3F飛天	
3	オクトーバーフェスト(休止)			
4	香川日独協会・ボン独日協会姉妹提携30周年記念事業(ボン訪問)	11/24(日)～27(火)	ボン市内各会場	
5	クリスマス会	12月	未定	
6	春を呼ぶ会・ドイツ映画観賞会	2～3月	未定	

II その他事業

	事業名	期日	会場	備考
1	富田珠里(ドイツ在住会員)ピアノコンサート	8月上旬	高松市内	名義共催事業として
2	かがわ国際フェスタ2024出展	10/14(月)	アイパル香川	若者の会
3	丸亀町グリーン・ドイツクリスマスマーケット	12月	丸亀町グリーンけやき広場	名義後援

III 会議等

	事業名	期日	会場	参加人数
1	全国日独協会連合会総会出席	4/19(金)・20(土)	鳴門市ドイツ館	
2	第1回理事会	5/6(月)	協会事務所&オンライン	
3	総会	6/8(土) 17:30～	JRホテルクレメント高松3F玉藻	
4	懇親会	6/8(土) 18:00～	JRホテルクレメント高松3F玉藻	
5	第2回理事会	8月	協会事務所&オンライン	
6	第3回理事会	2月	協会事務所&オンライン	
7	ボンとオンラインミーティング(姉妹提携30周年事業に向け)	5/23(木)以降随時		

2024年度香川日独協会収支予算(案)

(2023年4月1日～2024年3月31日)

< I 収入の部 >

(単位:円)

科 目	2024年度予算額	2023年度予算額	差 異	摘 要
1 会費収入	440,000	440,000	0	
① 普 通 会 員	240,000	240,000	0	@3,000×80名
② 家 族 会 員	50,000	50,000	0	@5,000×10
③ 学 生 会 員	10,000	10,000	0	@2,000×5
④ 賛 助 会 員	140,000	140,000	0	
2 事業収入	1,000,000	700,000	300,000	
① 総 会	350,000	250,000	100,000	会費@7,000×50名
② オ ク ト ー バ ー フェスト	0	150,000	△ 150,000	休止
③ ク リ ス マ ス イ ベ ント	150,000	150,000	0	会費
④ 春 を 呼 ぶ 会	150,000	150,000	0	会費
⑤ 姉妹提携30周年記念式典	350,000	0	350,000	会費@7,000×50名
⑥ そ の 他	0	0	0	
3 助成金	0	0	0	
① 県 国 際 交 流 協 会	0	0	0	
② そ の 他	0	0	0	
4 雑収入	100,020	100,020	0	
① 預 金 利 息	20	20	0	
② 広 告 収 入	100,000	100,000	0	
③ そ の 他	0	0	0	
当期収入合計(A)	1,540,020	1,240,020	300,000	
前期繰越収支差額(B)	1,540,508	2,026,128	△ 485,620	
収入合計(A)+(B)	3,080,528	3,266,148	△ 185,620	

< II 支出の部 >

(単位:円)

科 目	2024年度予算額	2023年度予算額	差 異	摘 要
1 事業費	1,750,000	1,230,000	520,000	
① 総 会	500,000	400,000	100,000	
② オ ク ト ー バ ー フェスト	0	180,000	△ 180,000	休止
③ ク リ ス マ ス イ ベ ント	180,000	180,000	0	
④ 春 を 呼 ぶ 会	180,000	180,000	0	
⑤ 若者の会関連事業費	50,000	50,000	0	
⑥ 姉妹提携30周年記念式典	500,000	0	500,000	
⑦ 姉妹提携30周年記念事業	100,000	0	100,000	訪日団受入、訪問団記念品等
⑧ 会 報 発 行 費	150,000	150,000	0	会報2024
⑨ 理 事 会	20,000	20,000	0	会場使用料他
⑩ 全 国 日 独 協 会 連 合 会	70,000	70,000	0	会費・総会参加料・旅費補助
2 管理費	152,000	242,000	△ 90,000	
① 通 信 費	50,000	70,000	△ 20,000	記念誌送料・HP管理料他
② 事 務 局 諸 経 費	50,000	70,000	△ 20,000	事務費等
③ 手 数 料	2,000	2,000	0	振込手数料
④ 渉 外 費	50,000	100,000	△ 50,000	
3 奨学金	50,000	50,000	0	留学生@10,000円×5名
4 予備費	100,000	100,000	0	
当期支出合計(C)	2,052,000	1,622,000	430,000	
当期収支差額(A)-(C)	△ 511,980	△ 381,980	△ 130,000	
次期繰越収支差額(A)+(B)-(C)	1,028,528	1,644,148	△ 615,620	

香川日独協会会則

(名 称)

第1条 本会は、香川日独協会(Japanisch-Deutsche Gesellschaft Kagawa)と称する。

第2条 本会は、事務局を香川県内に置く。

(目 的)

第3条 本会は、文化及び産業における日独両国間の友好関係を助長し、併せて両国民の親善を図ることを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、次の事業を行う。

- (1) 講演会、研究会、展覧会、音楽会、映画会などの開催
- (2) ドイツ語講習会の開催
- (3) 文化使節・来日ドイツ人との交流及び記念パーティの開催
- (4) 会報の発行
- (5) 内外の関係諸団体との交流
- (6) その他、本会の目的達成に必要な事業

(会 員)

第5条 会員は、日独友好・親善に熱意と関心を有するものとし、次のとおりとする。

- (1) 普通会员
- (2) 夫婦会員
- (3) 学生会員
- (4) 賛助会員(法人会員)
- (5) 特別会員

2 会員の資格は、次の場合に失われる。

- (1) 定められた年会費を2年以上滞納した場合
- (2) 本会の名誉を著しく棄損し、あるいは本会に損害を与えた場合
- (3) 本人の死亡

(役 員)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長
- (2) 副会長
- (3) 理 事 若干名
- (4) 監 事
- (5) 最高顧問
- (6) 顧 問
- (7) 名誉会長

- 2 会長代行を置くことができる。
- 3 役員は理事会で選出し、事前または事後に総会において承認を得るものとする。
- 4 会長は会務を総理し、本会を代表する。副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、これを代理する。

第7条 役員の任期は2年とする。

- 2 役員は、再任されることができる。

(会 議)

第8条 本会の会議は、総会及び理事会とする。

(1) 総会は会員をもって構成する。

(2) 理事会は、会長、会長代行、副会長、理事、監事をもって構成する。

第9条 定例総会は会長の召集により、毎年6月末日までに開催し、会長が議長となる。

ただし、必要がある時は、会長は臨時総会を招集することができる。

- 2 臨時総会の決議方法は、会長の判断により、書面決議、電磁的方法による決議など適宜な方法で行うことができる。
- 3 理事会は必要に応じ会長が招集し、議長となる。

第10条 会議の議事は、出席者の過半数の賛成をもって決定する。可否同数の場合は、議長がこれを決定する。

(総 会)

第11条 総会は、理事会から提案された次の各号について承認するものとする。

- (1) 事業計画（後援事業を含む。）及び事業報告に関する事
- (2) 予算及び決算に関する事
- (3) 会員に関する事
- (4) 役員に関する事
- (5) 会則に関する事
- (6) その他会長が、必要と認めたもの

(理事会)

第12条 理事会は、次の各号について協議し、会務を議決する。

- (1) 総会に付議する必要があるもの
- (2) 次条第1項の「委員会」に関する事
- (3) 緊急止むを得ない事情などにより、総会を開催し、承認を得ることが困難な事案
- (4) その他会長が、必要と認めたもの

- 2 前項第3号の決定をしたときは、直近の総会に報告し、承認を得るものとする。

(委員会)

第13条 本会は、その目的達成に必要な事項を研究、実施するために理事会の承認を経て、各種の委員会を置くことができる。

- 2 委員会の委員長は、原則として理事会が承認したものがこれにあたる。

(会 計)

第14条 本会の経費は、年会費、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(会 費)

第16条 本会の会費は、次のとおりとする。

- (1) 普通会员 年額 3000円
- (2) 夫婦会員 年額 2名 5000円
- (3) 学生会員 年額 2000円
- (4) 賛助会員 年額 1口 10000円 以上

2 会費は、毎年4月に納入するものとする。ただし、新に会員となるものは、入会時に会費を納入するものとする。

(事務局)

第17条 本会の事務を処理するため、事務局を設ける。

2 事務局に事務局長及び事務局次長を置き、事務局長及び事務局次長は、理事会の承認を得て、会長が任命する。

(付 則)

- 1. この会則は、1991年10月13日から施行する。
- 2. 1993年11月27日：第5条及び第15条、一部改定追加（夫婦会員を追加）。
- 3. 1998年 2月11日：第14条、一部改定（会計年度10月～9月を4月～3月に変更）
- 4. 2000年 5月 7日：第7条、一部改定（役員の任期3年を2年に変更）。
- 5. 2002年 8月31日：第5条、一部改定（1年以上滞納を2年以上に変更）
- 6. 第6条（3）（5）の項に若干名をいれる
- 7. 2015年 8月23日：第5条、一部改定（特別会員を追加）第6条、一部改定（最高顧問、顧問、名誉会長を設置）（役員は理事会で選出、事前または事後に総会で承認に変更）第7条一部改定（役員任期は次の定例総会までに変更、役員新規満了の項目を削除）第9条一部改定（定例総会は毎年6月末日までに開催に変更）（臨時総会の書面決議、電磁的方法による決議など適宜な方法で行うことができるに変更）（理事会は会長が招集、会長を議長に変更）
- 8. 2022年 6月 4日：第6条一部改定（2 会長代行を置くことができるを追加）第7条一部改定（役員任期を2年に変更）第8条一部改定（理事会構成員に会長代行、監事を追加）第17条一部改定（事務局に事務局次長を追加）

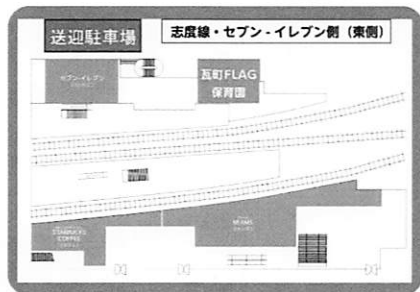
でぶらで登園 瓦町FLAG保育園



高松市認可
0・1・2 歳児

☎ 087-802-6966

<http://sakuranomori-hoikuen.com>



瓦町FLAG保育園

〒760-0054 高松市常磐町 1-3-1
瓦町FLAG1 階
平成レッグス株式会社
〒761-8031 高松市郷東町 117
☎087-881-2397

小・中学生から高校・大学生、新社会人から経営者まで、 それぞれ対象の異なる人生戦略プログラムの運営を通して幅広くサポート!

[夢・志プロジェクト] ドリームシップ プログラム

人生戦略入門編

●対象:小学4年~中学3年生

子ども達一人一人がかかげえのない人生を、悔いの残らないように力いっぱい生きてほしい、その思いを込めて作ったプログラム。人生という大航海にそれぞれが掲げる夢・志をゴールと定め、そこを目指して生きていけるように自分と向き合うワークショップです。

「自分とは?」「どんな自分になりたいのか?」「つきたい職業は?」ワークシートを通して親子で共に考え、「自分の夢・志」を大きなシートに書いて掲げ、発表することで物語が始まります。

●ドリームシッププログラム
ホームページ

<https://www.bigs-i.com/dsp/>



[人生設計の構築] 若者未来塾

人生戦略中級編

●対象:高校生・大学生・社会人2~3年生

「人生の目標を、より早い時期に決めた人のその後の成長は著しい」というハーバード大学の調査結果に基づき、若者たちへ早い時期に志を持ち目標に向かうことの重要性を訴え、将来への大いなる可能性に気づいてもらうためのプログラム。講師を務める大坂靖彦の若い日の経験・人生をかけて実行してきた実例を示し、自身の人生を長期スパンで捉え、熱き志で実行していく覚悟と壮大なオリジナルストーリー(人生設計)を描くためのサポーターとなります。

●若者未来塾ホームページ

<https://www.bigs-i.com/wakamono-mirai/>



[蛻変の経営塾] 大坂塾

人生戦略上級編 + 経営戦略

●対象:経営者・経営幹部・社会人

年商7000万円の家電販売店を339億円の家電チェーン店まで1代で成長させた、大坂靖彦の実体験に基づくシンキング・メソッドを学ぶ、中小企業の経営者のための経営塾。

ビジネスモデルの捉え方・考え方を軸に、コストへの視点や人財活用、情報の収集や活用など大坂流の実践経営論を学ぶことができます。経営者としてどうあるべきか、どう判断すべきか、いかに成長するべきかを学び、また、そこから自社の成長へ具体的に落とし込む力をつける経営塾です。

●大坂塾ホームページ

<https://www.osaka-juku.com/>



その他の非営利株式会社ビッグ・エス インターナショナル事業活動

ドイツ語/日本語
スピーチコンテスト



社会貢献活動
(マスク・アルコールジェル寄贈)



学校・教育機関、
企業・団体への
講演活動

日独交流
160周年企画
日独友好賞



問い合わせ先



非営利株式会社 ビッグ・エス インターナショナル

BSI Non-Profit-Corporation BIG-S International (NPC)

日独交流振興協会

Gesellschaft zur Förderung des Japanisch-Deutschen Austausches

大坂塾

◎住所/〒760-0017 香川県高松市番町4-2-19

◎居宅/〒105-0002 東京都港区愛宕2-3-1-4003(愛宕グリーンヒルズフォレストタワー)

TEL 090-2898-1989 FAX 03-6745-1494

E-mail info@osaka-juku.com

非営利株式会社ビッグ・エス インターナショナル

<http://www.bigs-i.com>

大坂塾

<http://www.osaka-juku.com/>

日経産業新聞の連載企画『仕事人秘録』にて2021年11月9日(火)~12月23日(木)に全29回のシリーズが連載されました。掲載記事はwebでご確認いただけます。

https://bigs-i.com/dl/Ja-hiroku_page.pdf



クリエイティブの力で パートナーの未来を 拡張します。

ビジネスコンセプトから商品デザイン、広告まで、
「企業と顧客をつなぐ視点」「アイデア立案力」
「デザイン力」「プロデュース力」を武器に、
より上流、より本質から御社の事業成長に貢献します。

コンサルティング会社

構 想

(事業戦略)

デザイン会社

実 装

(ブランド開発・商品開発など)

広告会社

プロモーション

(広告・WEB・PR)

FISHはこの全てに一気通貫でコミットできるのが特徴です

FISH
Creative Facilitator

香川県高松市丸亀町3-13 丸亀町参番街西館2F

Tel / 087-813-1540 Mail / info@fishinc.jp Web / fishinc.jp



FISHはセーラー広告グループのクリエイティブコンサルティング会社です

香川日独協会会報 第28号

2024年6月発行

発行：香川日独協会事務局

Japanisch-Deutsche Gesellschaft KAGAWA

〒761-8031 香川県高松市常磐町1-3-1

瓦町FLAG1階

TEL：087-897-3818

FAX：087-802-6977

E-mail：info@jdg-kagawa.org

URL：<http://jdg-kagawa.org>

発行責任者：住谷 幸伸（会長）

編集：田村 慶三（会報編集委員長）

印刷：(有)ファスト・プリント・テクニカ